令和元年度岡山県生涯学習審議会及び岡山県社会教育委員の会議第4回会議

議事概要

日 時　令和２年２月４日（火）
　　１４：００～１６：００
場 所　岡山県庁分庁舎１階共用会議室１０１

１　開　会

２　議　事

（１）協議事項
・提言（案）について
・研究の表題について
・今後のスケジュールについて

３　その他

（１）その他

４　閉　会

＜議事概要＞

○「１開会　２議事（１）協議事項　・今までの経緯と前回会議の質問事項について」
関係資料により事務局が説明

会長	前回会議での骨子を元に、委員の皆様からの意見を踏まえながら提言（案）を作成してもらった。今までの所で、御質問や御意見、または御感想でも構わないので何かあるか。
委員	概要の４分割の表に出てくるＡＢＣＤは本文のどこかに出てくるのか。
事務局	本文の中にそれぞれ「Ａの取組について」などといった形で書いている。
委員	どこにあるのか。

事務局　資料１０ページの括弧でくくっている上側にAとB、１０ページの下側から１１ページの上側までにCとD。前回の３回目の会議でそれぞれの事例について取組の工夫や学びがあるものについて説明したことを整理している。

委員　概要と本文の表記が一緒であればわかりやすい。

委員　保護者の学びの中で、子育てに関する部分の学びを提言していくわけだが、保護者の学びは、現状把握の中で述べられている講座や研修会への参加だけではないと思われる。他にも学校に関係するところなど、保護者の学びに繋がるような講座や研修会への参加のデータがある。これは国の調査か。

事務局　国の調査だ。

委員　他の調査はないか。研修会や講座に決めつけすぎになっている気がする。

事務局　昨年の３月の第２回会議に使った資料をベースにしている。そのときには、「全国調査」と岡山県の「青少年の意識等に関する調査」を使っている。県と国の調査は前半は同じような質問項目となっていたが、後半は県の調査には無い項目が国の調査にはあったため、国の調査で統一して抜粋している。

委員　調査の質問の流れもある。不安を持つ保護者の家庭教育に関する講座や研修会の参加割合を調べているが、悩みがある人の傾向を講座や研修会への参加だけで見ていいのか。講座・研修会に特化しすぎているような気がする。

事務局　抜粋している表の順番が悪いのかもしれない。図３にも情報提供や講座のデータがあり、国の調査は項目として、かなり網羅的に入っていた。なかなか研修に参加者が集まらないと、今までの会議の中で話題があった。２個目に挙げているので、少し誘導しているように見えるのかもしれない。

委員　ただ結果として「いろんな方法がもっとあるよ」ということを提言しようとした場合、学校等を拠点として行う研修や講座等に「もっと参加しましょう」と言うだけではなく、子育ての相談や他の機関との連携などについても言及すべきだと思う。現状の考察をもう少し膨らませていた方が後の提案に広がるのではないかと思う。

会長　ここで現状と課題を分析し、流れを作り、後半につないでいこうというところだが、保護者の学びというのも非常に多様なものがあるが、学ぶ機会や学んでいこうとする力は非常に弱い。講座や研修会に参加するというようなフォーマルな形で学ぶということは少ないので重要ではない。友達同士で話をする、

あるいは学校という場で先生たちと話をするといった学校という場でインフォーマルな形で学ぶ力が強い。学校という場でＰＴＡ活動を通した学びに着目する必要があるのではないか。現状分析をうまく本文につなげ、それが事例研究のところにつなげていけばよい。

事務局　順番が間違っていたのは感じている。国の調査で図２の項目は後半で出てきた内容だ。

会長　講座へ参加ということが最初に出てくるというのがよくないのかもしれない。ワンクッション置くといいのかもしれない。

委員　これまでと同じように講座や研修をしていたら参加者も少なく、活動も衰退していく中で、今までなかったようなサロン的な内容など、学校間の垣根を低くすることなど、みんなでつどえるところにしようという提案もできるのではないか。現状を広く捉えていく方がいいと思う。

委員　講座や講演会の参加が少ないというより、講座や講演会をするばかりではなく、いろんな学びが広がったらいいということか。それを明確に書き、ＡＢＣＤも全部やりましょうというわけではなく、状況に応じて選ぶような形になればよいのか。

会長　事務局から保護者が学ぶことの意味の説明があったが、基本的には保護者の学ぶことの意味をメッセージとして伝えることとしたい。どちらかというと、これまでは子どものためにＰＴＡ活動をしていくといった意味合いが強かったが、ＰＴＡ活動というのは、同じ世代の子どもを持つ親たちが繋がる、親たちが学ぶ、そういう場でもある。そういうときに、もう少し気軽に保護者が関われるような大人の学びを推進する。保護者が子どものために何か力を付けて学ぼうというのではなく、一緒に共に学ぶということが保護者の学びにとっていいことであるということがメッセージとして伝えられればということだ。ＰＴＡというものは子どものために、学校のためにというよりも、保護者自身のためにも必要だということを伝えたい。そういうメッセージを込められたらいいと思う。それには、いろんな手法、事例があり、それぞれの学校、それぞれの状況に応じ、今、自分の学校はこういう状況だから、もう少しこの取組を増やしていこうと考える機会が増えてほしい。

委員　学校の先生への負担が気になるが、これはそうでなく、先生も協力するが、保護者や子どもが主体になるようなニュアンスで進めていってもよいものか。

会長　そうだ。ただ、カリキュラムへ追加するということになると、学校の方にも参画してもらいたい。

委員　タイトルに「・・・子どもと共に学ぶ」と書いてあるが、主語が誰か明確でないので学校の関わりも見えてこない。

会長　この後、タイトルはしっかり議論しようと思っている。そこでタイトルも絡め、メッセージ、狙い所、そういったものは本文の中で一貫させていかなければいけない。

委員　提言を、概要の方にもカットせずフルバージョンと同様に入れてはどうか。提言を読まず概要しか読まない人もいると思う。そんなにスペースが変わらないのであれば、提言を概要にも全部載せる方が伝わりやすいのではないか。

事務局　コンパクトにしているのは確かにある。通常は１枚ものになった方がいいと思う。今はどうしても入りきらなくて３枚になっている。工夫が必要だと思う。ただ、入れたいところは必ず入れる。

会長　良い悪いは別として、ポンチ図やＡ４で１枚という形の時代にある。文章で読んでほしい気持ちもあるが、そういう傾向にある。なかなかまとめるということは難しいが、そういう傾向にある中で上手に概要版にする。

委員　私の発言は、３ページにまとめるという前提での発言であった。１ページにまとめるということであれば、それはそれで。

会長　本文を全部読んでほしいが、なかなか難しいと思うので、概要版でも伝えたいことはまとめられるようにしたい。県教委や我々としては、これを作ったことによって、どう活用していくのか。メッセージや狙い所の主なターゲットはどこか、波及させるのはどこか。どこに対しこれを活用し、施策に反映するのか。これも概要版にかかってくる。

事務局　前回の会議の中で学校の負担について言われたので、今回の内容も、基本的には地域で取り組む内容だと思う。ただ、学校行事にうまく絡ませながら、このような取組が小学校や幼稚園などで行われていることを保護者が知らないのはよくないと思う。そして、この取組を通して、保護者の人間関係がうまく作れること、例えば、子ども同士の喧嘩なども、保護者がお互い分かる関係の方が解決が早い。今回、保護者の人間関係を作っていく接点の場、地域の人と繋がる場という表現を入れているが、その場を積極的に使うことにより、子ど

もの教育課題に対応していけると思う。元々、保護者や家庭に対してのメッセージなので、学校という場を活用して家庭教育支援をしていくようなイメージだ。

会長　　個人的な思いとしては、ＰＴＡや親の学びというものは、子どものため、学校のためと思っている人が多いが、実は保護者自身の学びのために、学校の場は必要だということを、保護者自身も感じてほしい。親としては、「教育というのはサービスだ」という発想になって、「先生、いいもの提供しなさい」という発想になっている。一緒に作っていくとか、あるいは保護者だから子どもを教えるというのではなく、答えがないから「一緒に考えていこう」ということも大切だと、親自身にも気付いてほしい。

委員　　ＰＴＡの活動は、学校の応援団として子どものために協力する部分と、保護者の学びとする部分とがあり、それぞれの学校やＰＴＡで実際にたくさん行われている。しかし、参加する保護者が増えていない実態がある。今回の提言のように、大人としても学んでいくべきだとＰＴＡでも発信し続けていかなければいけない。今回の提案の中で議論されている部分は、どのＰＴＡでも悩まされている。そういう意味で、今回の提案を受け、それぞれの単位ＰＴＡで工夫し、少しでも保護者に参加してもらえるような形に繋げていけたらと思っている。役員をやった方の中には、学校との距離が近くなり、意識が変わったと言われる方もいる。今はＰＴＡと聞いただけで敬遠されがちなところもあるが、子どものためであり、大人の学びの場でもあるということを、提言を参考にして発信していきたい。

会長　　他に御意見や御質問はあるか。

副会長　　全文を読んでみると誰に対して発信しているのか、少し弱いように感じる。前回会議では、学校に対して負担がかかるような内容になるとダメだという話だったと思う。対象者の保護者・ＰＴＡ・地域の人に、確実に届くような発信の仕方にした方がいい。全文の中で見るとその辺りが弱い。「保護者に対して発信している」、「出てこられない保護者に、ぜひ見てほしい」と言うぐらいの発信力を出さないとだめだ。また、提言の中に、もう少し具体的に、研修会や講座以外のことも考えられるという文言が入った方がいい。そうすると提言がもっと充実していくと思う。

会長　　その辺りのところは、タイトルが一番表現しやすいと思うので、この後、しっかり考えていきたい。本文の内容については、皆さん方と共有できていると思う。伝え方や誰に対するメッセージかというのは、タイトルに込められてく

るので、しっかり議論したい。何を主にして、何をサブにするかということを含めて、もう少し検討したいと思う。提言の内容やストーリー、流れ等に関して、改善点等について意見をいただきたい。

委員　学びということだが、子育てについて学ぶのか、地域づくりのことを学ぶのか、全部学ぶべき必要があるのなら、それぞれ何のために学ぶ必要があるのか。ＰＴＡは、いろいろ講習をするが、何のため学ぶのかという所とリンクしていない。

会長　子育ての学びと親自身の成長のための学びが、少し混在している。これが、現状分析の所の引っかかりに繋がっている。「親の学び＝子育て支援」と最初に説明しているが、話の展開はそこに留まっていない。学びの意味について、もう少し整理が必要かと思う。それは重要な御指摘だ。

事務局　前回会議の中で、保護者の学びとは何か話題になり、どう表現していくか難しかった。学説がたくさんあり、スタンダードなものが見つからなかった。本文には、教育基本法を引用したが、親の学びというよりは、役割を書いている。また、行政が支援する内容を学習内容として置き換えている。実際に、親の学びの内容は何なのかとなると、決まった学習内容を伝えるものであったり、スマホのような課題を知ったり、話し合う内容もある。また、いろんな文献を見ていくと、子育てをしていきながらで経験値としての学びも親の学びとして含まれているものもある。さらに、子どものキャリア教育に繋がっていくものを含めると、どこまでがテリトリーなのか難しい。

会長　保護者の学びや、親の学びという説明は、非常に難しい。例えば、家庭教育の法律に従うと、子育てに関する保護者の学びというのに絞ってもいいと思う。ただ、その子育てには、実は３つの側面があり、第１の側面は保護者が「子どもを育てる」という側面、これは、みんな子育てと思う。このほか、子育てには第２・第３の側面があり、第２は「子ども同士が育ち合う」という側面、第３は子どもと関わることによって大人が学ぶという、「子育てすることで保護者が育てられる」という、３つの側面がある。現状は、第１の側面の理解が非常に強い。さっきの４分割表でも、大人が教えるＡ・Ｂの取組が多い。でも、実は子育ては子どもと関わりながら大人が学ぶという意味も入っているので、共に学ぶという視点も必要だ。子育ての学びの捉え方については、文献があるので、整理して上手く使うといいと思う。整理すると、我々が子育てを、「大人が子どもを教えること」として捉えすぎて、その捉え方が現状にも反映されている。したがって、そこを見直して、「学ぶことも子育てですよ」というメッセージを送るべきではないか。ある程度整理しないと、受け取る人によって

は、何の学びを指しているのかわからないことになる。

事務局　子どもを通して大人が学ぶ取組の実態について、現状と課題の中で説明したいのだが、その現状値の数値が無い。

会長　数値はいらない。子育てというのは、最初から第３の側面が出てくるのではなくて、「大人が子どもに教える」という側面は強く、学んでいる場は研修を通しての学習が中心ではないかと思う。しかし、それ以外に学校という場でインフォーマルに学ぶという仕方がある。だから、学校に注目しようとした。しかし、学校の中の学びを見ても、結局「子育て」というのは、大人が子どもを教えるという傾向で、４分割表のＡやＢが多かった。しかし、次のメッセージとして、それも大切だが「子どもに教えられる」とか「子どもと一緒に学ぶ」ことも必要だ。

私のイメージであれば、保護者が学ぶ現状というのは、講座形式で教えてもらうという傾向が強いが、そのような学びを取り扱っているものは少ない。どこに行けばというと、学校という場でインフォーマルな実態、現状が多いのではないか。そうであれば学校という場に着目する必要があるのではないか。それが、スタート。そこで、学校という場の学びの中は、どうなっているのか調べてみると、「大人が子ども教える」という発想での取組、ＡＢが中心だった。もちろん、それも大切だが、視点を変えると子どもと一緒にやっていこうという学びのやり方も大切ではないかと、メッセージとすることはどうだろう。

事務局　国や県の調査の中に「学びの場」についての項目があった。全体の学びの場があって、そのうち学校がどのくらいで、それ以外がどのくらいというような表があり、比較的、学校が多かった。

会長　ただ、その時に難しいのは、「学校という場」で学ぶことは大人にとって、プラスになるといったメッセージになるが、「拠点」と言ってしまうと学校がしなければならないと受けとめられてしまう。そう受けとめられないよう、あくまで学校というフィールドで、大人同士が学びやすい一つの場として取り扱い、学校、教員がしなければならないことと捉えられないように気をつけなければいけないと思う。

委員　最初の「はじめに」の項目に、「この提言は、これからの保護者の在り方について考えるための提言です」と。子どもが関わってくるが、子どもに読ませるわけではなく、子どもと関わることが大切だと、保護者に悟らせるというか。対象は保護者で、そこをはっきり打ち出した方がいいのではないか。

事務局　例えば、親が学ぶと言って、将来のマネープランのために学ぶようなもの、これは範疇に入らないと思う。そう考えると、子どもとの関わり、学校と地域との関わり、そういったものを取り巻く中で何を学ぶか、ある程度整理しておく必要があると思う。

会長　あくまで私の整理は、学ぶことの関係性の上で、親の学びという捉え方だ。内容ということになると、なかなか難しいところだ。私の捉え方は、子育てというのは、結局、子どものためにしているという捉え方が多いと思うが、それは一面であって、もう少し親同士が学ぶ。学ぶ内容のレベルの高い低いは関係なく、親同士がお互い学んだり、子どもと大人が一緒に、答えが無い、例えば、スマホの問題など取り組むことは、非常に意味があるということを込められたらと思う。しかし、我々大人は、結局、大人が知識や技術を子どもを教えるという発想が未だに根強い。だから、もう少し学びの意味を広げてほしいと思う。教育の原点は家庭教育に有りと言ったが、家庭教育という捉え方も難しい。だからと言って、斬り込まないのもいけないと思う。今回、こういう形で、岡山らしく、大人と子どもが共に学ぶということ、ずっと岡山県がやってきた研究だ。そういう流れの中で、家庭教育や子育ての学びを、岡山らしく分析していけたらなと思う。

また、御意見をこの後いただいたり、もう一回作った案を見てもらうなど、みなさんにお伺いすることになる。メール等になるかも知れない。会議後に少し時間が経って気付いたことがあれば、事務局まで御連絡をお願いしたい。内容的には問題ないので、組み替えや強調点など、スパイスの振り方だと思うので、素材自身の意見では無かった。問題はタイトルで、最初にどうしても目が行くところだ。タイトルについて、しっかりと決めて終わりたい思う。事務局からタイトル案について、これまでの議論を踏まえて説明をお願いしたい。

○「研究の表題について」
関係資料により事務局が説明

会長　事務局から提案があったように、保護者の学びというところが重要だ。保護者の学びの意味や、保護者主体という所が大切なポイントだと思う。また、学ぶ場としては、拠点という言い方が少し強いという点はあるが、学校という場、学校を舞台にして、保護者が学ぶ場だということを伝えたい。もう一つは、子どものために学ぶという考え方でなく、一緒に学ぶということの重要性を訴えたい。そういうことは、事例を分析することによって導き出したことなので、事例分析や事例研究というようなこともタイトルからわかる方がいいのではないか。複数の要素を、主題と副題に入れこむという非常に難しい作業で、ど

の点についてもメリット、デメリットがあると思う。

委員　先ほど、保護者・地域の大人・子どもがと言ったが、保護者が地域の大人・子どもと共に学ぶ取組の推進でよいか。

会長　そうだ。

委員　また、取組事例を中心にというところがなんとなくスッキリしない。

会長　これは手法や事例分析をしながら導き出したということで、そういったことをサブタイトルに入れるというのもあってもいい。

委員　取組事例を参考に、紹介などか。

会長　そういうことだ。

委員　取組事例の中身が出ているわけではない。それを元に考えて提言をしている。

会長　分析を通してという表現だと思う。

委員　それが言いたい。

会長　入れるとすればそういうことだと思うが、いろんな要素を中に入れ込むということは難しい。

委員　主体は何かいうと、イメージはＰＴＡだが、ＰＴＡがない学校も今はある。そういう意味では保護者だ。しかし、保護者１人が「私これやります」と言っても、そもそもできるものでもなく、言葉をどうするか分からないが、画期的なイメージとしては、「ＰＴＡの学び改革の推進」、「みんなで育つ地域学」そんなイメージと思う。

会長　今のような感じがいいかなと思う。ＰＴＡというと話が変わるので、保護者の方がより広い感じがする。

委員　「ＰＴＡの学び改革」みたいなものが、「みんなで育つ地域学のすすめ」。みんなで育つなのか、みんなが育つなのか。

会長　　これはやはり学びの改革。それは、今までの子育ての、大人が子どもを教えるという側面、いわゆる第１の側面から、第３の側面へということが重要だと。変わっていかなければならないことを、「はじめに」や「メッセージ」で強調しないと、本文と合わないことになる。何をやっているのか相手に分かるようにしないといけない。ＰＴＡの部分は、保護者に変えた方がよい。

事務局　　気になるのが、地域の大人という部分は、学校中心の事例を収集しているので薄い。公民館やそういったものが入っていないので、地域の繋がりが弱いということが気にはなっている。

会長　　そういう場合には、「みんな」という言葉が表現として濃淡を表してないので使いやすい。柔らかな表現にはなる。

委員　　これはＰＴＡの学び方や、親たちの学び方など、もっとバリエーションを増やして、こんなことがあるのではないかというような提言になると思っていたが、先ほどの子育ての３つの側面にしても、親子関係、親と学校、親同士という非常に狭い世代の学びだ。本当は地域に委ねるというか、地域創生を兼ねてというのが、ずっと言われてきたことだ。それについては、防災しかないのではないか。自分の命を守る防災教育となると、親も子も地域の人もみんなそうだし、学校もそういうことをやったら、周りの老人はどうなのかと話になり、広がっていく。この前、「ららおかやま」という親たちの組織が、ネット上で情報発信している中で、真備の災害時に全国から多くの支援物資を集め、メンバーも活気づき、メンバーも増えたという話を聞いたばかりだ。やはり防災は絶対誰にも関わる話で、岡山もつい最近経験もあり、防災マップについても必要と言われているが、地域も温度差がある。テーマ的には、すごくいいと思いながら聞かせてもらった。

会長　　今までの岡山県の研究の流れも、大きい話題、小さい話題と繰り返している。例えば、全体的な大人と子どもの学び合いという話題の次に、中学生の出番作りといったようなこともあった。したがって、この次の研究のテーマは、これを具体化し、みんなが学ぶテーマは防災なので、災害もあったし、防災をテーマに、次の研究テーマを選んでもいいと思う。今御提案いただいたことは、また皆さん方や県教委とも話していかなければならないが、こういうことで一番繋がりやすいのは、防災減災教育ではないかということで、そこに特化して研究してみるのもいいのではないかと思う。

今貴重なタイトル提案をいただいたが、ＰＴＡというよりは「保護者の学び改革」というと話が大きすぎるか。

委員　各方向性が極めて分かりやすく、明確になっていい。中を取ってというよりは、保護者の学びというものを変えてみたいという主旨であれば、インパクトの強い文言で提案していった方が、結果として有効になるのではないか。

会長　わかった。

委員　学活という科目があったと思う。ホームルームとか。

会長　今もある。

委員　学活というのは何の略か。

会長　学級活動。特別活動が正式な名称で、特別活動の中に学級活動がある。

委員　学活や就活などがあるから、学活を使って学び活動、学ぶ活動のようなものはどうか。学級活動ではなく、地域の学び活動の推進で学活のようなものだ。

委員　地活か。

委員　いろんな活動がある。例えば、朝活とか。

会長　皆さんの柔軟な発想がいい。私はどうしても固く捉えてしまう。学級活動ということで学校がイメージできるのか。

委員　大人の学びとか使っている。そういうのを使いたいと思うので、学び活動、学活とか、学ぶ活動とかマナカツとか。言葉を作る。

事務局　マナカツはカタカナか。

委員　カタカナでもいいし、ひらがなでもいいし、ふりがな読み付きで学活でもいい。

会長　「マナカツのすすめ」か。そういうタイトルは好きだが、本文の中にそういうことを、ちりばめていかなければならないので、少しそれに合うように変えていかなければならない。先ほどの子育ての３側面という視点と、このタイトルに合うような改革で提案するというメッセージになる。

事務局　メッセージとなるように、「はじめに」の所で、タイトル設定とこの意味を

書いて、「～することになりました」という形にし、例えば「学活」についてはこういった意味ですという解説を入れる。

会長　もしくは、メッセージを入れておいて、「学活」とはどんな意味かなと、最後にＡＢＣＤの活動を通して、多様な大人の学びの活動を「学活」というのを最後に説明するのもありだと思う。その辺りの出し方は、最初に出すのか、最初にちょっと振っておいて後半に出すというのもあるかもしれないが、今いただいた案の方が、皆さんハッと目に止まりやすいと思う。ただ、そういう方向に合うような内容にチェンジしないといけないと思う。

次に、今後の研究スケジュールだが、修正を踏まえてということになるが、その辺りの説明をお願いしたい。

○「・今後のスケジュールについて」「その他」
関係資料により、事務局から説明

会長　もう一回、今日、テーマ等に新しい刺激をいただいたので、それを踏まえて少し組み直し、最終的に次回で皆さんにチェックしてもらいたいと思う。またお気づきの点などあれば、事務局まで御連絡いただければと思う。このスケジュール、方向性で進めさせていただきたいと思うが、御意見や御質問あるか。非常にタイトな形で進んでしまい申し訳ないが、このようなスケジュールで進めさせていただけたらと思う。それでは少し早いが、「その他」に移りたいと思う。特にないか。

委員　スケジュールを見ると、３月に１回、６月に１回とあと２回ぐらいか。

委員　ただ、今回の提言については、次の回で決着を付けるということになる。６月については、先ほど清水委員からあったが、こんなテーマについてやっていきたいなど御意見をお聞きしたい。

事務局　３月の会議で、基本的にこの提言の形では終了となる。ただ５月下旬～６月にかけて、提言の手交と併せて、７月で任期が満了し、委員が替わることになるので新委員の方々に向けてどういった形で、次期テーマを決めていこうかということでもう１回開催したい。現委員では２回集まっていただく事になる予定。